

Close up だて



一笑顔で楽しく いちごづくり

伊達苺研究会

代表 ^{すず} **鈴木** ^{あき} **秋** ^え **衛**さん

2 011年3月の東日本大震災では、巨理町、山元町、新地町など伊達市と姉妹都市である東北の町も被災し、今も悲しい爪跡が残っています。

伊達市にはそんな故郷の状況にも負けず、新しい試みに励んでいる方々がいます。

被災後まもなく、「伊達市でいちごの育成を指導してもらえませんか？」との市の呼び掛けにこたえ、移住された5世帯。気候も土も違い、当然育てる品種も違う初めてづくしの中の第一歩として、「すずあかね」という品種の出荷に取り組みました。伊達市にきて初めて関わった品種です。

「作物はみんな一緒だけど、特にいちごはデリケート。伊達は北海道では雪の少ない暖かい土地だと聞いていたが、巨理町と比べるとやっぱり寒い雪が多い。寒さとどう折り合いをつけるのが課題



1個ずつ、ていねいに収穫します

だね」と朗らかに答えてくださったのは、伊達苺研究会の代表を務める鈴木秋衛さんです。

同会は、鈴木さんを始めとする巨理町から移住してきたいちご生産者といちごに関わるJAなどで構成され、いちごの試験栽培を通し、伊達市に適した品種の開発や育成の指導を行っています。

「これからも伊達市でいちごづくりを続けていくためには地域ブランドとして根付くことも欠かせませんが、まずはみんなが美味しいと思えるものをつくりたい」といちごに対する思いも話してくれました。

最後に「これからも試行錯誤は続く。ゆくゆくはこの土地にあった品種を見つけ『伊達のいちご』としてブランドが確立すれば何よりも嬉しいし、伊達への恩返しにもなると思うので頑張りたい」と決意を語ってくれました。



奥に長いハウス内はいちごの香りでいっぱいです

広報だて

■発行・編集 伊達市企画財政部企画課
 ☎ 0142-23-3331 内線238・239
 FAX 0142-23-4414
 ✉ kouhou@city.date.hokkaido.jp
 〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1

楽 画 記

■「情報は生もの」最近、この言葉を痛感しています。広報紙の締切日は月に1度ですが、ホームページとなると毎日が締切日！「今」公開しないと意味がない情報が殆どなので、その情報を腐らせないよう四苦八苦…している(じ)さんを横目に、今日も穏やかに広報紙作成に勤む私です。(や)

■今年の夏は、昨年と比べるとまったりとしているようです。暑いと集中できず、文章が散らばり編集長に迷惑をかけてしまうので、穏やかな日々のためにこのまま涼しくあってほしいものです。また、ホームページの『質』を理解する道のりは険しく、フォトピックスがせいぜい。皆さんの情報が頼りです。(と)

■新ホームページと旧ホームページの違い…その内容を挙げるとキリがないほど。中でも特に思い入れが強いものがひとつ一つのページの『質』！情報量はもちろん、文章表現や使う単語など細部に当分の意図が…でもその分各担当とのガチンコ対決に今も火花が飛び交います。憎まれ役もそう案ではなく…(ハ)(じ)

として保存しましょう